

# 2024年度 事業報告

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

公益財団法人不二たん白質研究振興財団

## 1. 事業の概況

当財団は、1979年（昭和54年）の「大豆たん白質栄養研究会」発足以降、1997年（平成9年）の財団法人化、さらに2012年（平成24年）の公益財団法人化を経て、2024年度（第28期）には発足45年を迎えました。

本年度は研究助成事業として国内での助成事業に加え、昨年度より開始しました海外研究助成を実施しました。例年5月末に実施しております研究報告会は、大阪・千里阪急ホテルにおいて、会場での口頭での報告を中心に一部リモートでの発表を併用した上で開催をいたしました。2022年度（第26期）に採択された助成対象者による研究成果を掲載する研究報告会誌については6月に刊行いたしました。本財団の研究助成事業を広く一般の人々に周知いただくための広報活動では、公開講演会を不二製油株式会社不二サイエンスイノベーションセンターを講演会場としまして、初めて全面リモートでの開催をいたしました。

情報ネットワーク環境の進展やAI技術の発展により、財団を取り巻く環境も益々変化していく中、当財団としましても財団ホームページや財団EU支部ホームページとの連携、各種Webサイトの活用により、広く財団の研究成果を活用頂けるように進めました。これら活動を通じ研究助成事業の継続と、より一層財団事業を広範に知って頂く活動を継続します。

## 2. 事業報告

### 1) たん白質に関する研究およびこれに関連する研究を行う者に対する研究助成事業

#### （1）2024年度研究報告会の開催

2023年度（第27期）助成課題として採択された助成対象者による研究成果の報告会は、2024年5月27日、28日に大阪・千里阪急ホテルでの実地開催と海外在住者を含む一部リモート会議を併用した形で開催いたしました。

特定研究課題2題と一般研究課題21題、若手研究者課題5題、海外研究助成1題の計29件の報告がなされました。選考委員の先生方には座長をお願いしたうえで、各発表について評価いただきました。なお今期より選考委員の評価コメントについては、さらなる研究の発展を期待し、助成対象者へフィードバックすることとしました。

#### （2）2023年度研究報告記録誌の刊行ならびに2024年度研究報告記録誌の編集

2022年度（第26期）に採択され、2023年度の研究報告会にて、その研究成果が報告された内容を掲載した研究報告会記録誌「大豆たん白質研究」第26巻を2024年6月に刊行し、関係者、希望者に無料で配布いたしました。本誌はISSN1344-4050、CODEN DTKEFVとして公開され、国会図書館等で閲覧することができます。また、科学技術

文献データベース（JICST）での検索が可能であります。

また、2023年度（第27期）に採択された助成対象者による研究成果を掲載する研究報告会記録「大豆たん白質研究」第27巻の編集作業を進めており、本年6月刊行を予定しています。

### （3）2024年度研究助成金の支払い

前年度において採択された2024年度（第28期）の一般研究への助成として、19件の課題に対して総額19,000千円を支払い、また若手研究者枠の助成では6件の課題に対して総額6,000千円を支払いました。特定研究への助成では、2024年度新規採択1課題、継続2課題の計3課題について総額15,000千円を支払いました。海外研究助成では1件の課題に際し5,000千円を支払いました。以上、研究助成金の総額は45,000千円となりました。

これらの研究成果は、本年5月26日、27日に開催を予定している研究報告会において、助成対象者より報告されます。

### （4）2025年度研究課題の選考

2024年9月～11月の間に日本およびEU支部の財団ホームページに募集要項を告知し、学会誌ならびに学会ホームページ等（日本）やLinkedIn（EU支部）に募集要項を掲載し、2025年度（第29期）の研究助成の課題を募集しました。昨年度に引き続き一般研究ならびに若手研究者枠の応募数増加を期待し、通常の告知に加え、過去応募者への積極的なPRを実施しました。その結果、国内研究助成の応募者数は増加しました（応募件数：新規特定研究2件、一般研究60件、若手研究枠14件）。

応募課題については、2025年1月27日に不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンター6階会議室を拠点とするリモート会議（Zoom利用）にて開催した選考委員会において、選考委員長である大阪大学下村伊一郎教授を中心に厳正に審議が行われました。特定研究については、過去における採択基準に照らしても妥当と判断して、1件が採択されました。継続課題2件については、研究が順調推移していることから、引き続き採択とされました。一般研究課題ならびに若手研究者枠については、選考委員による評価点を基に議論の結果、一般研究課題として20件、若手研究者枠として5件が採択されました。海外研究助成では、過去2年（2023年、2024年度）の応募が低調であったことから助成対象国をオランダ1か国から、欧州5か国に拡大し募集を行い、その結果、8件の応募があり、海外選考委員と国内選考委員より選抜された2名の計3名の委員による一次選考により3件を決定し、その結果を踏まえて、日本の全選考委員にて3件について二次評価を実施しました。選考委員会での審議の結果、1課題を採択することになりました。この選考結果は理事会にて承認の後、速やかに各研究者に通知されました。

以上、助成総額は45,000千円となっております（採択課題は別表を参照）。

## 2) たん白質に関する研究およびそれに関連する研究に関する広報活動

### （1）2022年度研究成果の広報

研究報告会記録「大豆たん白質研究」第26巻に掲載された報告内容は、インターネット上で検索システムを付けて公開し、随時閲覧が可能といたしました。

## （2）公開講演会

今年度の公開講演会は、評議員の茨城大学教授の中村彰宏先生に運営委員長をお願いし、2024年10月11日（金）に不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンター（泉佐野市）を会場としたZoomによる完全WEB開催の形で、「大豆のはたらき－人と地球を健康に－」と題して開催いたしました。演題、講師は下記のとおりです。

### 1. 食品加工において大豆に求められる多様な役割と機能

講師) 京都大学大学院農学研究科 准教授 松宮 健太郎 先生

座長) 茨城大学農学部 教授 中村 彰宏 先生

内容) 持続可能な社会の発展を目的として、植物性素材の高度利用が急速に進んでいる。そのような状況の中で、大豆は栄養的な側面からも、生理機能性の側面からも、高度利用における主要な役割を担っている。その一方で、どれだけ健康に資する食品であっても、その継続的な摂取には、嗜好性、すなわちおいしさが備わっていることが重要である。本講演では、嗜好性の鍵となる食品の外観や食感などのテクスチャーを制御するものとして、ゲルやエマルジョンといった食品の構造を形成するための加工機能に着目し、植物性素材の高度利用に必要な視点を議論するとともに、他種たん白質との比較など具体的なデータを例示し、大豆の高度利用に関わる最新の知見を紹介頂いた。

### 2. 作物における栽培化と突然変異の役割 –ダイズにおける突然変異育種を事例に–

講師) 佐賀大学農学部 准教授 渡邊 啓史 先生

座長) 茨城大学農学部 教授 中村 彰宏 先生

内容) 私たちが普段食品として利用している多くの穀物は、その起源をたどると野生で育つ植物となる。ある植物の種子を人々が食糧として利用する中で、採集した種子を播いて育てるという営みが、植物の性質を大きく変化させ、農業が発達したと考えられている。その変化の過程を栽培化と呼び、栽培化によって野生の植物は人間が栽培しやすい性質を持った作物へと変化を遂げた。このように栽培化に伴う性質の変化をもたらす原動力は遺伝子のDNA配列に生じた自然突然変異によるものである。本講演では自然突然変異と作物の栽培化の関係、また人為突然変異による新たな特性や機能を持った作物の改良について、大豆を例に最近の研究結果を含めて講演頂いた。

### 3. 大豆はすごい！－日本人の長寿を支える大豆の機能性とは

講師) 東京大学大学院農学生命科学研究科 特任教授 佐藤 隆一郎 先生

座長) 九州大学五感応用デバイス研究開発センター 客員教授 中森 俊宏 先生

内容) 日本は世界有数の長寿国である。それ故日本人の食事内容は世界中から注目され、日本型食生活として高い評価を受けている。その優れた食事内容の一つとして、数多くの種類の大豆腐製品を摂取していることが挙げ

られる。世界中を見渡した時、大豆を食材とする民族は東アジア、中南米の限られた国々で、大半の国では食材として摂取することはない。そこで本講演では、良質なタンパク質を豊富に含み、畑の肉とも称される大豆の健康増進効果を示す科学エビデンスについて、身近な大豆製品である納豆や、さらには最近の知見として、大豆中に含まれる機能成分である大豆イソフラボンや大豆たん白質の健康機能についてメカニズムから応用まで幅広く講演を頂いた。

今回の講演会は、事前参加登録として当日のWeb参加、ならびにアーカイブ視聴希望に260名の登録を頂きました。当日はアカデミア、企業研究者を中心に全国より140名を越える方にご参加頂きました。Webならびに平日での実施したことにより、参加者数の増加に加え、企業関係者など参加対象範囲が拡大し、従来よりも広く参加頂くことができました。後日、講演の内容については閲覧期限を設けた上でYouTubeを利用して財団ホームページ上より閲覧を可能といたしました。

今後もこのような公開講演会を通して、大豆・大豆たん白の良さを、広く普及・啓発していきたいと考えております。

### 3) その他目的を達成するために必要な活動

#### (1) 事業時報の発行

財団の内容説明と事業紹介のため「時報」第27号を刊行しました。

#### (2) 事業活動等の公開

2023年度の事業報告・決算報告ならびに財務内容、および2024年度の事業計画・予算をすべてインターネット(<https://www.fujifoundation.or.jp>)上に公開しました。ここには役員・評議員等関係者の随想も掲載されています。

#### (3) 海外への情報発信

研究報告書の検索サイトを海外研究者により閲覧しやすい形にするために、日本国内向けホームページの英語サイトをリニューアルし、運用を継続しております (<https://www.fujifoundation.or.jp/english/>)。引き続き情報のアップデートを行い、より活用しやすいように検討を続けて参ります。

また、財団活動のグローバル展開では、今まで報告してきた研究成果を国内外問わず広く知っていただくことを目的として日本国内向けホームページ（英語サイト）とEU支部ホームページとのリンクを行い、大豆や植物性たん白質の有用性に関する様々な情報の更新を隨時、行なっております (<https://fujiproteinfoundation.org/>)。

## 3. 会議等 注）文書中決議事項は（議）を付した。

#### 1) 理事会

##### (1) 第1回理事会の開催：定款第44条による決議

日時：2024年5月8日（決議があったものとみなされた日）

事項：2023年度事業報告の承認  
2023年度決算に関する計算書類の承認  
定時評議員会（第1回評議員会）招集についての承認  
次期評議員候補者案の定時評議員会への提出についての承認  
次期役員候補者案の定時評議員会への提出についての承認

（2）第2回理事会の開催

日時：2024年5月28日 午後1時15分～午後2時10分  
場所：千里阪急ホテル3階梅桃の間  
議案・報告  
第1号（報）2023年度事業報告について  
第2号（報）2023年度決算に関する計算書類について  
第3号（報）特定研究活性化準備資金の運用状況について  
第4号（議）次期評議員の選任について  
第5号（議）次期役員の選任について  
第6号（議）2025年度研究助成課題募集要項と選考について  
第7号（議）2024年度日程について  
第8号（議）2024年度広報事業（案）について  
第9号（報）理事会最終決裁について  
第10号（報）代表理事及び業務執行理事の執務の状況について  
その他

（3）第3回理事会の開催：定款第44条による決議

日時：2024年5月31日（決議があったものとみなされた日）  
事項：代表理事・理事長選任の件  
業務執行理事・常務理事選任の件

（4）第4回理事会の開催：定款第44条による決議

日時：2024年12月27日（決議があったものとみなされた日）  
事項：2024年度臨時評議員（第2回評議員会）招集に関する事項

（5）第5回理事会の開催

日時：2025年1月28日 午後1時～午後2時10分  
場所：不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンター6階会議室を拠点と  
したリモート会議  
議案・報告  
第1号（議）2025年度研究助成課題の採択について  
第2号（議）2025年度事業計画について  
第3号（議）2025年度予算について  
第4号（議）規程の変更について

第5号（議）2025年度日程について  
第6号（報）基本財産の運用について  
第7号（報）代表理事及び業務執行理事の執務状況について  
その他

## 2) 評議員会

### (1) 定時評議員会（第1回評議員会）の開催

日時：2024年5月28日 午後1時～午後2時10分  
場所：千里阪急ホテル3階梅桃の間  
議案・報告  
第1号（議）2023年度事業報告について  
第2号（議）2023年度決算に関する計算書類について  
第3号（議）特定研究活性化準備資金の運用状況について  
第4号（議）次期評議員の選任について  
第5号（議）次期役員の選任について  
第6号（報）2025年度研究助成課題募集要項と選考について  
第7号（報）2024年度日程について  
第8号（報）2024年度広報事業（案）について  
第9号（報）理事会最終決裁について  
第10号（報）代表理事及び業務執行理事の執務の状況について  
その他

### (2) 臨時評議員会（第2回評議員会）の開催

日時：2025年1月28日 午後1時～午後2時10分  
場所：不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンター6階会議室を拠点と  
したりモート会議  
議案・報告  
第1号（報）2025年度研究助成課題の採択について  
第2号（議）2025年度事業計画について  
第3号（議）2025年度予算について  
第4号（報）規程の変更について  
第5号（報）2025年度日程について  
第6号（報）基本財産の運用について  
第7号（報）代表理事及び業務執行理事の執務状況について  
その他

## 3) 選考委員会

### (1) 第1回選考委員会の開催

日時：2024年5月27日 午前11時～午前11時40分  
場所：千里阪急ホテル3階梅桃の間

議題：

- 第1号 第27回研究報告会の進行、研究内容の評価について
- 第2号 2024年度広報事業（案）について
- 第3号 2025年度研究助成課題募集要項と選考について
- 第4号 2024年度日程について

（2）第2回選考委員会の開催

日時：2025年1月27日 午後2時30分～午後3時30分

場所：不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンター6階会議室を拠点  
したリモート会議

議題：

- 第1号 2025年度研究助成課題の選考について
- 第2号 その他

附属明細書の作成について

1. 事業報告に関して、その内容を補足する重要な事項はありませんので、附属明細書は作成しておりません。

以上